

練習動画を見返し課題を発見・解決を目指す授業

令和7年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（授業視察）



自分の動画を振り返る生徒たちに助言をする倉地教諭（右端）。授業は柔道畳（1面分）の上で行われた。

令和7年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催＝日本武道館・日本相撲連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）が、10月3日、研究者5名、事務局2名が出席して愛知県高浜市立高浜中学校にて行われた。本事業では武道授業の充実を目指し、同校1年生32名による4時間目の相撲授業の視察と研究協議を実施した。

授業では「押し」の試合を行い、それをタブレット端末で撮影。生徒たちはイメージした動きと動画の相違を考え、よりよい動作を探っていた。研究協議では「ICT機器の活用は比較、分析、個別最適化に適している。他者からのアドバイスがあればなおよかった」などの意見が研究者から寄せられた。

◇出席者一覧

・研究者

桑森 真介（日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会、明治大学）

安藤 均（日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会、木曽町教育委員会）

堀内 弥（日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会、山梨県山中湖村立山中小学校）

長浦 卓也（熊本大学教育学部附属中学校）

荻根澤卓郎（埼玉県宮代町立百間中学校）

・事務局

満留 久摩（日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会、東京都立足立新田高等学校）

吉村 登（日本相撲連盟）

・授業担当者

倉地 伸幸（高浜市立高浜中学校教諭）

授業の様様



倉地教諭が生徒に授業の流れを説明



準備運動を兼ねて基本動作（塵手水）の確認



安全のため胸に頭を付けることを意識する



撮影者・主審・競技者を決めて試合を行う。
畳の上のカラーマークは試合場の区分けに使われた



自分の試合の動画を観て
見つけた課題をタブレットに記入



見つけた課題を意識しながら、再度
試合をして他の生徒に確認してもらう

研究協議



授業視察前に、授業計画を読みながら
実際に確認したいポイントを話し合う



授業視察後、倉地教諭や学校関係者を交え、
授業を振り返りながら意見交換